

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (Cedep)

センター長 秋田 喜代美

株式会社ベネッセホールディングス

代表取締役社長 安達 保

東京大学 Cedep・ベネッセ教育総合研究所 共同研究 「乳幼児の生活と育ちに関する調査 2017」結果速報

## 0~1 歳児の母親・父親の約 7 割が、もっと子どもをもちたいと希望

～“チーム育児”をしているほうが、次の子どもの出産意向が高い～

株式会社ベネッセホールディングスの子会社である株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)の社内シンクタンク ベネッセ教育総合研究所は、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (Cedep) (東京都文京区)と共同で、「乳幼児の生活と育ち」研究プロジェクトを進めています。このプロジェクトは、同一の親子を対象に、複数年にわたり継続して調査を行うことで、子どもが育つプロセスや親の関わり方の影響を明らかにすることを目的としています。今回は、2017 年に実施した第 1 回調査(0 歳 6 か月から 1 歳 5 か月の子どもをもつ母親 2,975 名・父親 2,624 名を分析)の結果をご紹介します。

主な調査結果は次のとおりです。

### 1. 0~1 歳児の母親の 74.1%、父親の 68.8%が、もっと子どもをもちたいと希望

- 回答者全体:あと 1 人以上「もつ予定」母親 45.5%、父親 46.5%、「もっとほしいが難しい」母親 28.6%、父親 22.3%
- 今、子どもが 1 人:2 人目を「もつ予定」母親 73.3%、父親 74.6%、「もっとほしいが難しい」母親 16.6%、父親 12.7%
- 今、子どもが 2 人:3 人目を「もつ予定」母親 21.7%、父親 21.4%、「もっとほしいが難しい」母親 42.2%、父親 33.5%

### 2. 「もっとほしいが難しい」理由は、上位から「子育て・教育の費用」「身体的な負担」「仕事との両立」

- 1 位「子育てや教育にお金がかかるから」(母親 81.4%、父親 81.3%)、2 位「子育ての身体的な負担が大きいから」(母親 49.9%、父親 36.0%)、3 位「子育てと仕事の両立が難しいから」(母親 37.4%、父親 26.4%)

※子どもをもつ予定をたずねる設問で「もっとほしいが難しい」と答えた人の回答。 ※複数回答。

### 3. “チーム育児(※1)”をしているほうが、子どもをあと 1 人以上「もつ予定」の比率が高い

#### 【夫婦で助け合う“チーム育児”】

- あと 1 人以上「もつ予定」:夫婦での助け合い(※2)が低群の母親では 41.3% < 高群の母親では 48.7%
- 「もっとほしいが難しい」:同、低群の母親では 35.4% > 高群の母親では 27.1%

#### 【親族のサポート(子どもの祖父母など)を頼りにした“チーム育児”】

- あと 1 人以上「もつ予定」:親族のサポート(※3)が低群の母親では 39.3% < 高群の母親では 49.9%
- 「もっとほしいが難しい」:同、低群の母親では 33.4% > 高群の母親では 25.4%

#### 【地域のサポート(子育て支援センターや園など)を頼りにした“チーム育児”】

- あと 1 人以上「もつ予定」:地域のサポート(※4)が低群の母親では 41.0% < 高群の母親では 49.7%
- 「もっとほしいが難しい」:同、低群の母親では 30.7% > 高群の母親では 26.7%

### 4. “チーム育児”をしている家庭では、父親が仕事と子育てを両立しやすい職場で働いている

#### 【夫婦で助け合う“チーム育児”をしている家庭の特徴】

- 父親の平日の子育てが「2 時間以上」:夫婦での助け合いが低群では 7.2% < 高群では 29.0%
- 父親の子育て分担比率:同、低群の 17.2%が子育ての分担は「0 割」、高群の 23.3%は「3~4 割以上」
- 父親の職場が「定時で帰りやすい雰囲気がある」:同、低群では 26.0% < 高群では 46.3%

※1“チーム育児”とは、本調査では、夫婦で助け合ったり、家庭外のサポートを得たりして行う子育てのことを指す。夫婦での助け合い(※2)は「配偶者と子育てや家事を助け合っていると思うか」についての回答、親族のサポート(※3)は「あなたの親族」「配偶者の親族」、地域のサポート(※4)は「子育て支援センターや児童館、園、療育センターの先生」「ファミリーサポートやベビーシッター、ヘルパー」「医師や看護師、助産師、保健師」について、それぞれ母親(主となる養育者)が子育てで頼りになる程度についての回答をもとに分析した。詳細は P5 以降の各グラフ注釈を参照。

## ■調査結果からみえてきたこと

2017年の出生数は、1899年の統計開始以降、最も少ない94.6万人になりました。急速な少子化の進行は、日本の人口構造に変化を与え、労働力不足や社会保障の在り方など、さまざまな面に課題をもたらします。

こうした社会環境の中にあつて、0~1歳児を育てている母親の74.1%、父親の68.8%が、もっと子どもをもちたいと考えていることがわかりました。子どもをあと1人以上「もつ予定」と答える母親は45.5%、父親は46.5%である一方で、「もっとほしいが難しい」と答える母親は28.6%、父親は22.3%いました。

子どもをもっとほしいけれど難しい理由は、上位から「子育てや教育にお金がかかるから」「子育ての身体的な負担が大きいから」「子育てと仕事の両立が難しいから」でした。世帯年収が800万円以上の層でも約7割が費用面を理由に挙げています。個人が希望する子どもの数をもてるようにするために、第一に経済的な不安感の軽減が必要です。また、母親が30代後半以上だと「身体的な負担」、働いていると「仕事との両立」が理由としてより高くなることから、子育て家庭の多様な状況に即した支援が求められるといえます。

さらに、次の子どもの出産意向に関連する夫婦の子育てのしかたもみえてきました。いわゆる“チーム育児”をしているかどうかです。夫婦で子育てや家事を助け合い、(子どもの)祖父母などの親族や、子育て支援センター、園などのサポートが子育てで頼りになると感じているほうが、次の子どもをもつ予定であると答える比率が高いことがわかりました。夫婦で助け合っていると感じている家庭のほうが、父親の平日の子育てが「2時間以上」が多く、(父親の)「職場が定時で帰りやすい雰囲気がある」と答える傾向があります。夫婦での“チーム育児”を可能にするには、長時間労働の是正や職場の理解など、仕事と子育てを両立できる環境整備が欠かせません。親族については、祖父母世代の就労や高齢化などを背景にサポートを得にくい家庭が今後増えていく可能性もあります。誰もが利用しやすい地域の子育てサポートの充実による“チーム育児”の実現も、希望する人が子どもをもちやすい社会にするためにますます重要になるでしょう。

なお、本調査はプロジェクトの第1回目です。子育て中の親が、今後、実際にどのように家族をつくっていくのか。引き続き調査する中で明らかにしていきます。

### 【調査概要】

本リリース内容の詳細につきましては、ベネッセ教育総合研究所のWEBサイトから「乳幼児の生活と育ちに関する調査2017」の速報版・集計表をダウンロードできます。<https://berd.benesse.jp/jisedai/>

名称	「乳幼児の生活と育ちに関する調査2017」
調査テーマ	子どもの生活、発達、保護者(母親・父親)の子育てに関する意識や行動
調査方法	郵送調査
調査時期	2017年9月~10月
調査対象	本プロジェクトの調査モニター 0歳6か月から1歳5か月の子どもをもつ母親2,975名、父親2,624名
調査項目	子どもの気質、アタッチメント、発達、生活時間、習い事、養育者の養育行動、子育ての悩み、配偶者との関係性、生活時間、家事・子育ての分担比率、妊娠・出産前後の気持ち、子育てで頼りになる人、親性、幸福感、抑うつ、家事・子育て等の負担感、子育てしやすい社会にするために必要なこと、社会に対する評価、これから子どもをもつ予定
調査企画・分析メンバー	〈プロジェクト代表者〉 秋田 喜代美(東京大学 Cedep センター長・教授) 谷山 和成(ベネッセ教育総合研究所所長) 〈調査企画・分析メンバー〉 遠藤 利彦(東京大学教授)／佐藤 香(東京大学教授)／島津 明人(北里大学教授)／ 小崎 恭弘(大阪教育大学准教授)／野澤 祥子(東京大学准教授)／ 宇佐美 慧(東京大学准教授)／大久保 圭介(東京大学大学院博士課程) 木村 治生(ベネッセ教育総合研究所 主席研究員)／高岡 純子(ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室室長・主席研究員)／真田 美恵子(ベネッセ教育総合研究所 主任研究員)／ 持田 聖子(ベネッセ教育総合研究所 主任研究員)

\*本調査は、子どもの「主となる養育者」と「副となる養育者」の2名に協力をお願いしました。主が母親、副が祖母というケースや、主が父親、副が母親というケースも見られましたが、ここでは、最も多かった組み合わせである、主が母親、副が父親というケースを報告しています。

\*チーム育児という用語は、『育児は仕事の役に立つ』(浜屋祐子・中原淳 光文社新書)を参考にさせていただきました。

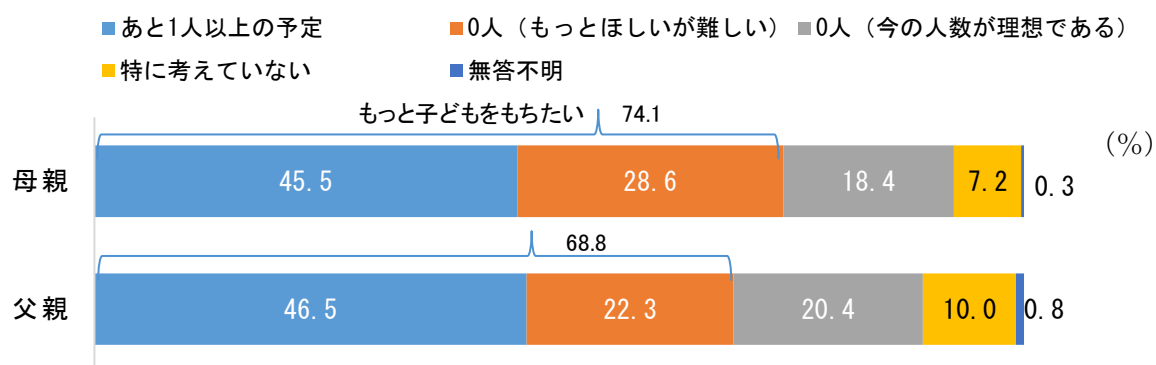
\*図表内の( )はサンプル数。

## 1. 0~1 歳児の母親の 74.1%、父親の 68.8%が、もっと子どもをもちたいと希望

### Q. あと何人、子どもをもつ予定ですか。

●回答者全体:あと1人以上「もつ予定」母親 45.5%、父親 46.5%、「もっとほしいが難しい」母親 28.6%、父親 22.3%

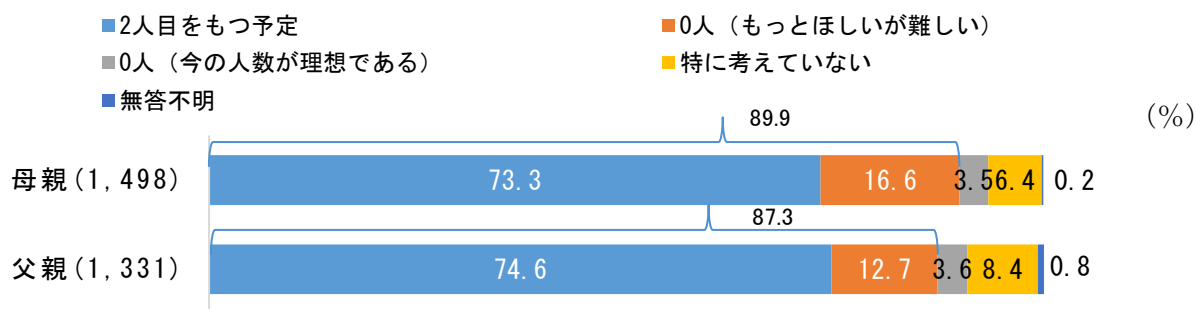
✚ 図1 これから子どもをもつ予定 (全体)



※「あと1人以上の予定」は、「あと1人の予定」+「あと2人以上の予定」+「希望する性別の子どもが生まれるまでもつ予定」。

●今、子どもが1人:2人目を「もつ予定」母親 73.3%、父親 74.6%、「もっとほしいが難しい」母親 16.6%、父親 12.7%

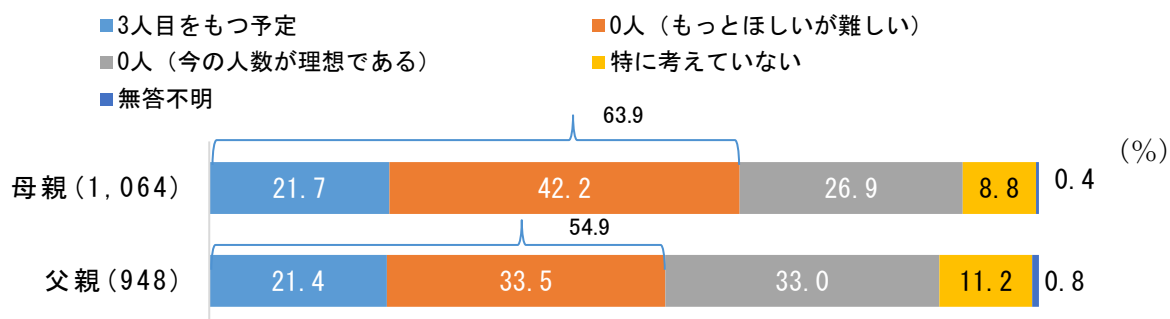
✚ 図2 これから子どもをもつ予定 (今、子どもが1人)



※「2人目をもつ予定」は、「あと1人の予定」+「あと2人以上の予定」+「希望する性別の子どもが生まれるまでもつ予定」。

●今、子どもが2人:3人目を「もつ予定」母親 21.7%、父親 21.4%、「もっとほしいが難しい」母親 42.2%、父親 33.5%

✚ 図3 これから子どもをもつ予定 (今、子どもが2人)

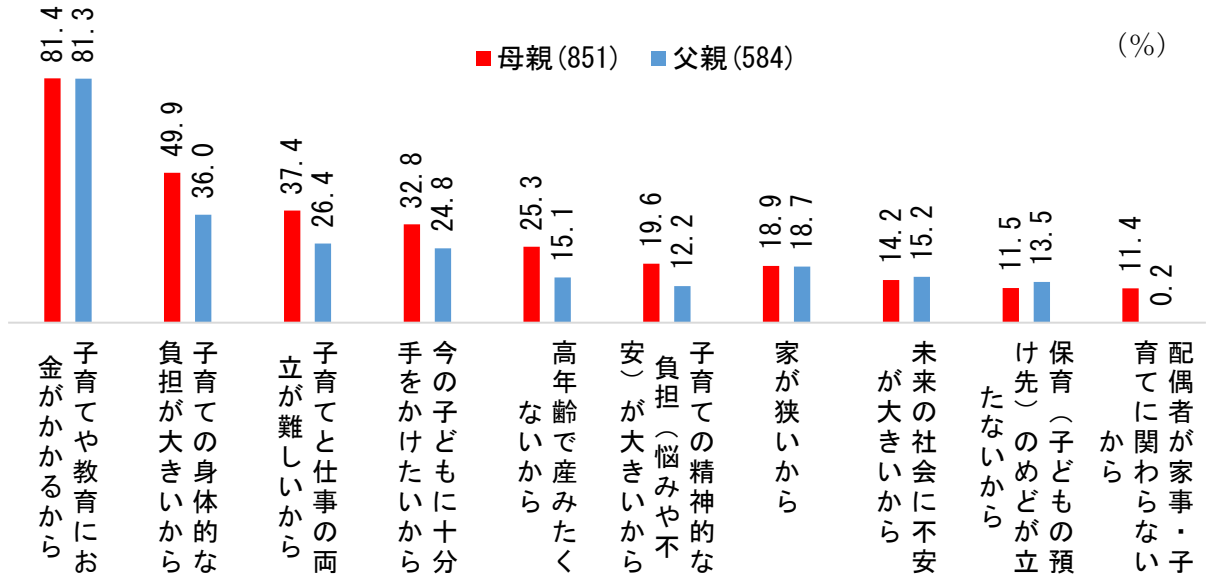


※「3人目をもつ予定」は、「あと1人の予定」+「あと2人以上の予定」+「希望する性別の子どもが生まれるまでもつ予定」。

## 2. 「もっとほしいが難しい」理由は、上位から「子育て・教育の費用」「身体的な負担」「仕事との両立」

Q. 「0人（もっとほしいが難しい）」を選んだ理由としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

図4 子どもを「もっとほしいが難しい」理由



※「0人(もっとほしいが難しい)」を選んだ人のみ。 ※18項目のうち、母親の上位10項目を図示。 ※複数回答。

図5 (1位)「子育てや教育にお金がかかるから」(世帯年収別)



※「0人(もっとほしいが難しい)」を選択した母親のみ。

図6 (2位)「子育ての身体的な負担が大きいから」(母親の年代別)



※「0人(もっとほしいが難しい)」を選択した母親のみ。

図7 (3位)「子育てと仕事の両立が難しいから」(母親の就労別)



※「0人(もっとほしいが難しい)」を選択した母親のみ。 ※「働いている母親」は、「無職」と「休職中」と無答不明を除く。

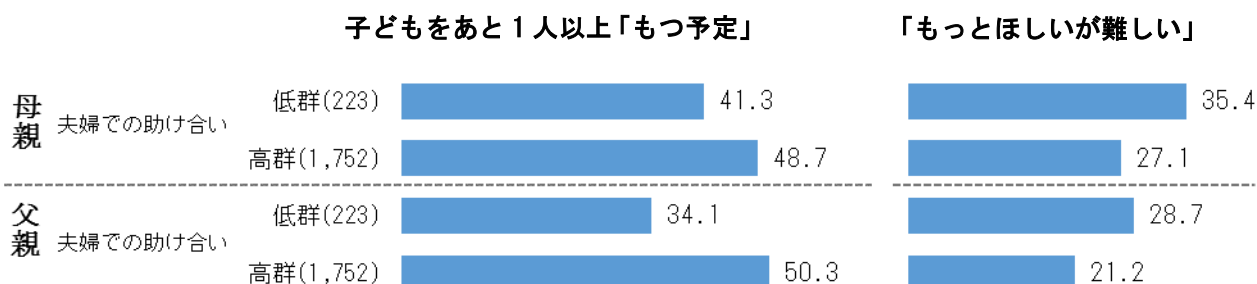
### 3. “チーム育児”をしているほうが、子どもをあと1人以上「もつ予定」の比率が高い

#### 【夫婦で助け合う“チーム育児”】

- あと1人以上「もつ予定」:夫婦での助け合い(※2)が低群の母親では41.3%<高群の母親では48.7%
- 「もっとほしいが難しい」:同、低群の母親では35.4%>高群の母親では27.1%

➡ 図8 子どもをもつ予定（夫婦での助け合い群別）

(%)



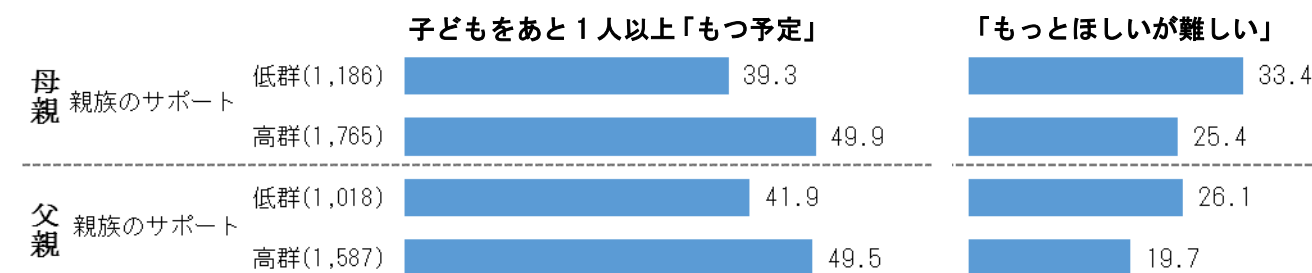
※2 夫婦での助け合い:「配偶者と子育てや家事を助け合っていると思うか」について、夫婦ともに「あてはまる(とても+まあ)」と回答した人を高群、夫婦ともに「あてはまらない(あまり+まったく)」と回答した人を低群とした。

#### 【親族のサポート(子どもの祖父母など)を頼りにした“チーム育児”】

- あと1人以上「もつ予定」:親族のサポート(※3)が低群の母親では39.3%<高群の母親では49.9%
- 「もっとほしいが難しい」:同、低群の母親では33.4%>高群の母親では25.4%

➡ 図9 子どもをもつ予定（親族のサポート群別）

(%)



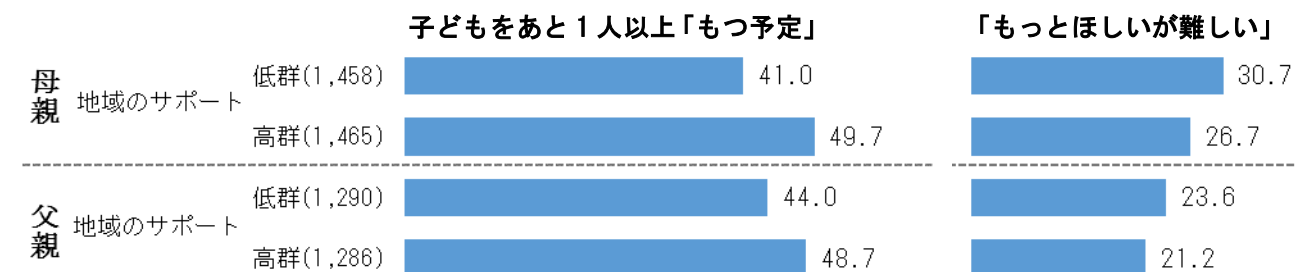
※3 親族のサポート:母親(主となる養育者)に対して、「あなたの親族(親やきょうだい)」「配偶者の親族(親やきょうだい)」が子育てで頼りになる程度をたずね、得点化したものを低群、高群に分けた。

#### 【地域のサポート(子育て支援センターや園など)を頼りにした“チーム育児”】

- あと1人以上「もつ予定」:地域のサポート(※4)が低群の母親では41.0%<高群の母親では49.7%
- 「もっとほしいが難しい」:同、低群の母親では30.7%>高群の母親では26.7%

➡ 図10 子どもをもつ予定（地域のサポート群別）

(%)



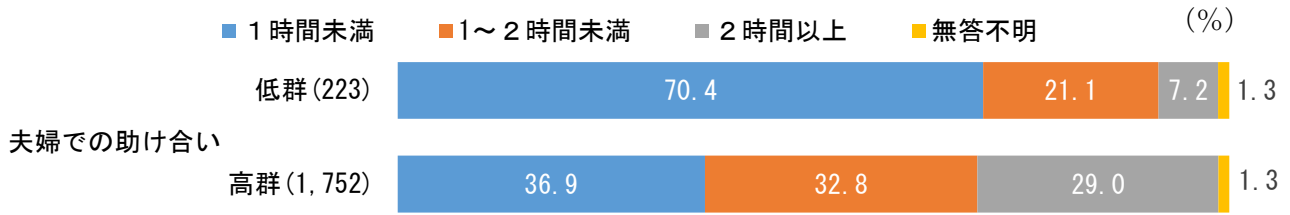
※4 地域のサポート:母親(主となる養育者)に対して、「子育て支援センターや児童館、園、療育センターの先生」「ファミリーサポートやベビーシッター、ヘルパー」「医師や看護師、助産師、保健師」が子育てで頼りになる程度をたずね、得点化したものを低群、高群に分けた。

#### 4. “チーム育児”をしている家庭では、父親が仕事と子育てを両立しやすい職場で働いている

【夫婦で“チーム育児”をしている家庭の特徴】

- 父親の平日の子育てが「2時間以上」:夫婦での助け合いが低群では7.2%<高群では29.0%

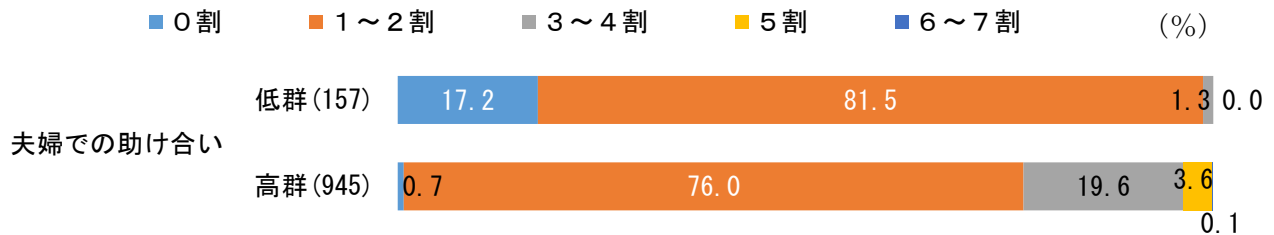
図 11 父親の平日の子育て時間（夫婦での助け合い群別）



※父親の平日の子育て時間は、父親の回答。※「1時間未満」は「0分」+「1時間未満」。「2時間以上」は「2~4時間未満」+「4~6時間未満」+「6~10時間未満」+「10~15時間未満」+「15時間以上」。※夫婦での助け合い:「配偶者と子育てや家事を助け合っていると思うか」について、夫婦ともに「あてはまる(とても+まあ)」と回答した人を高群、夫婦ともに「あてはまらない(あまり+まったく)」と回答した人を低群とした。

- 父親の子育て分担比率:同、低群の17.2%が子育ての分担は「0割」、高群の23.3%は「3~4割以上」

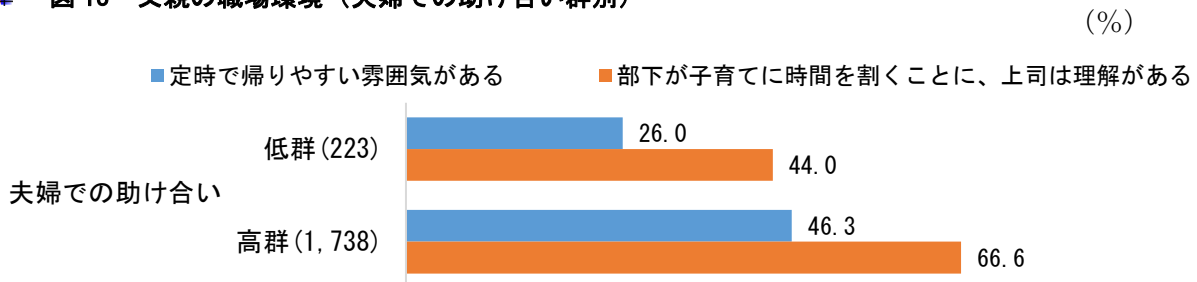
図 12 父親の子育て分担比率（夫婦での助け合い群別）



※父親が回答した「自分が子育てを分担していると思う比率」と母親が回答した「自分が子育てを分担していると思う比率」の合計が10割になったケース(夫婦の認識が一致しているケース)のみを分析(父親の子育て分担比率が8割以上のケースはなかった)。※夫婦での助け合い:「配偶者と子育てや家事を助け合っていると思うか」について、夫婦ともに「あてはまる(とても+まあ)」と回答した人を高群、夫婦ともに「あてはまらない(あまり+まったく)」と回答した人を低群とした。

- 父親の職場が「定時で帰りやすい雰囲気がある」:同、低群では26.0%<高群では46.3%

図 13 父親の職場環境（夫婦での助け合い群別）



※父親の職場環境は、父親の回答。※「とてもあてはまる」+「まああてはまる」※夫婦での助け合い:「配偶者と子育てや家事を助け合っていると思うか」について、夫婦ともに「あてはまる(とても+まあ)」と回答した人を高群、夫婦ともに「あてはまらない(あまり+まったく)」と回答した人を低群とした。